

令和6年 年頭所感

経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課
課長 渡邊佳奈子



令和6年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

印刷産業の皆様におかれましては、平素より弊省の政策にご協力を賜りありがとうございます。また、

我が国経済は、100兆円規模に達しつつある国内投資、3.5%を超える賃上げ、双方において実に30年ぶりの高水準を示しているところであり、成長と改革の方向に向かう「潮目の変化」ともいべき兆しが生じています。

これは、長らく停滞していた日本経済を反転させ、縮み思考、デフレマインドを変える千載一遇のチャンスでもあります。この流れを確実なものにし、日本経済の持続的な成長を実現するためにも、経済産業省として、昨年の臨時国会で成立した補正予算を速やかに執行し、足元の危機への対応に加え、国内投資の加速と成長力強化を大胆に後押ししていきます。

印刷産業に目を向けますと、潮目の変化が顕著となる中で、販促領域におけるソリューションサービスや包括的な受注の推進、デジタル領域でのサービス展開などお客様の多様なニーズにきめ細やかに応えた取組や、企業間連携による収益基盤の強化が印刷産業の強みをより伸長させるものと認識しております。

これを実現するため、DX確立に向けた支援や生産性を向上させる前向きな設備投資支援をもって応援させていただきます。

また、印刷産業の取引適正化を図るため、経済産業省は昨年度印刷業界の皆様とともに、下請ガイドライン改訂案及び印刷産業における取引改善等に向けた方策を検討させていただき、下請ガイドラインを改訂いたしました。印刷産業におかれましては、昨年10月に「下請適正取引の推進に向けた自主行動計画」を改訂いただきました。今後も下請取引の適正化に向けて、引き続き業界の皆様と強く連携して取り組んでまいりたいと考えております。

印刷産業は地域に根差した重要な産業の一つであると認識しております。事業領域の拡大やお客様に喜ばれる高付加価値サービスの提供による印刷産業の益々の進展により、日本経済が底上げされていくことを期待しております。

今年は、十干十二支の「甲辰（きのえたつ）」であり、大きな出来事が起こると予想され、これまでの努力が実って夢が叶いやすい年と言われております。昨年までに積み上げてきた努力を形にし、日本経済の新たなステージの幕開けとなるよう、皆様と共に新しい一歩を踏み出していければと思います。我々経済産業省も、皆様の後押しができるよう、職務に邁進してまいります。

最後になりましたが、皆様のご多幸と事業のますますの御発展を心より祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

GP JAPAN

全グラ情報

2024年1月号 No.278 全国グラビア協同組合連合会

今月の表紙



①～⑥ 2023年12月1日ECANAクラウンプラザホテル大阪において開催された関西グラビア協同組合「令和5年度年未情報交換会」⑦～⑩ 11月17日・18日に東京、新潟、北陸、関東、九州の青年部から75名が参加し開催された「第3回全国グラビア協同組合連合会青年部 全国大会」の様子

CONTENTS

巻頭言 令和6年 年頭所感..... ①

経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 課長 渡邉佳奈子

年頭所感

- (一社)日本印刷産業連合会 会長 北島義斉 ④
- 全国グラビア協同組合連合会 会長 田口 薫 ⑤
- 北海道グラビア印刷協同組合 理事長 若狭博徳..... ⑥
- 関東グラビア協同組合 理事長 吉原宗彦..... ⑧
- 埼玉県グラビア協同組合 理事長 市村清一..... ⑩
- 関東プラスチック印刷協同組合 理事長 石井 純 ⑪
- 東海グラビア印刷協同組合 理事長 杉山真一郎..... ⑫
- 北陸グラビア協同組合 理事長 賀谷真尚..... ⑬
- 関西グラビア協同組合 理事長 竹下晋司..... ⑭
- 九州グラビア協同組合 理事長 母里圭太郎..... ⑮
- 全国グラビア製版工業会連合会 会長 中嶋健一..... ⑯

組合員・単組の近況

- 関東グラビア協同組合 定例理事会 ⑰
- 関西グラビア協同組合 令和5年度年未情報交換会を開催 ⑱
- 関東グラビア協同組合青年部
- 「第3回全国グラビア協同組合連合会青年部 全国大会」報告..... ⑳
- 報告者：東洋インキ(株) 金原慎一郎

監督者・事務局員並びに大阪岬評価試験会場報酬及び運用 規程… 30

全国グラビア協同組合連合会 外国人技能実習評価試験委員会

JFPI …………… 32

「第75回全国カレンダー展」、ニッスイ、横浜ゴムなど69点入賞

Data Watch 2023年9月データ …………… 34

紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2023年10月 … 40

GP認定制度申請についてのお願い …………… 44

Information …………… 33

大日精化工業、表刷り印刷用バイオマスインキ「TRISURF」が米袋に採用

1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」により、被害に遭われた方々に謹んでお見舞い申し上げます。1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円+税です。

購読および広告出稿を希望される方は、**全国グラビア協同組合連合会**まで。
e-mail:zenkoku-grv@utopia.ocn.ne.jp



発行：2024年1月10日
 発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）
 発行所：全国グラビア協同組合連合会
 〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9
 あさひ墨田ビル
 TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814
 編集スタッフ：袖山高明（全国グラビア協同組合連合会専務理事）
 渡邊富美子（同事務局）、酒井由香（同）
 編集協力：(株)加工技術研究会
 印刷：(株)DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2024

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

2024年

年頭所感

(一社)日本印刷産業連合会

会長 北島義斉



令和6年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

旧年中は、日本印刷産業連合会（日印産連）の運営に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年日本経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、経済活動の正常化が進み、個人消費やインバウンド需要が増加傾向になるなど、緩やかな回復が見られました。一方で、地政学リスクが長期化するなか、世界的な金融引き締めによる景気減退懸念に加え、物価上昇や急激な為替変動など、先行き不透明な状況が続きました。

印刷業界では、原材料価格やエネルギー費の高騰など、厳しい経営環境が続くなか、デジタル技術を活かして働き方や暮らしを変革する「DX（デジタルトランスフォーメーション）」も進んでいます。情報媒体のデジタルシフトは、紙媒体の需要減という面だけでなく、製品・サービス等の付加価値を最大化するビジネスモデルの構築やビジネスチャンスの拡大、経営の変革にもつながっていくものです。また、地球環境に対する人々の意識の高まり等による、新たな需要も見込まれています。

こうしたなかで日印産連は、2015年に制定した「日印産連グランドデザイン」に基づく活動を続けてきました。しかしながら、制定から8年が経過したことに加え、特に2020年からのコロナ禍の影響も大きく、人々の生活や仕事をはじめ、印刷産業を取り巻く事業環境が大きく変わりました。こうした状況を踏まえ、昨年12月に、「グランドデザイン2030」再構築プロジェクトを発足しました。SDGsの目標達成年である2030年の印刷産業のあるべき姿を見据え、未来を切り開く新しい印刷産業の姿を描いていきます。

従来の「印刷」を再定義して新しい印刷産業の姿を示す「ビジョン」、そのビジョンの実現に向けて日印産連が取り組む「ミッション」、そのミッションを果たしていくための具体的な「アクションプラン」を策定していく予定です。また、経済産業省をはじめとした関係省庁や関連業界団体の皆様とも連携し、新たな産業イメージの構築と発信に努めます。印刷産業として、さらなる事業領域の拡大や付加価値の創出を進め、持続可能な環境・社会・経済の実現に取り組んでまいります。

「2024新年交歓会」は、人数制限を解除させていただき、多くのご来賓や会員企業の皆様が一室に会する形で、盛大に開催いたします。また、今年5月には、8年ぶりとなる世界最大の印刷機材展「drupa 2024」に合わせて、WPCF（世界印刷会議）が同時開催されます。各国の印刷関係者との情報共有を図るとともに、日本の印刷産業の現状や取り組みなどを発信する機会としていきます。

日印産連はこれからも、会員10団体の皆様との連携を一層深めて、業界の持続的な発展に努めてまいります。皆様には、これまで以上のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、さらなるご繁栄とご健勝を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

2024年

年頭所感

全国グラビア協同組合連合会

会長 田口 薫



皆様、新年おめでとうございます。日頃は全国グラビア協同組合連合会の活動にご協力賜り厚く御礼申し上げます。

さて、軟包装（ソフトパッケージ）グラビア業界は誕生して約70年、今や1兆円産業に成長し、国民生活に欠くことのできないエッセンシャルな存在です。

私共はより軽量で商品保護性の高い新商品、新技術を開発し、生産技術を上げ、会員各社の業績向上、社員の育成等、経済産業省はじめ日本印刷産業連合会のご指導の下、企業の発展を支援して参りました。しかし、流通界からの値下げ要求によって、原料が上っても製品を安く供給するために社員の待遇や労働条件の改善、設備改善等の我慢を強いられて参りました。その結果が現在の姿です。老朽化した設備、社員の高齢化と相変わらずの3K職場で若手が入社せず、工場は疲弊しています。

失われた30年と言われるように、日本の給与は下り基調であり、我々中小までお金は回って来ず、日本の全従業員の70%の中小企業の賃上げは遅れ、各世帯が1カ月当たり数千円の節約を強いられています。さらに、ウクライナ戦争などによる原油や天然ガスの高騰で価格転嫁に追われました。これまでも価格転嫁は大幅な負け越しで、今回も失敗すれば業界存亡の危機となります。ここで今までと異なる展開がありました。トップ企業が大幅な値上げに動き、需要家との長年の取り引きで大きく陥没していた価格が大きな幅で引き上げられました。結果、受注量が下っても利益は上がる。社員の労働時間も減りました。これは海外へ進出したり、企業買収をすれば日本の低収益ビジネスが間違っていることがよく理解でき、海外企業においては10%の利益が常識であること、そして行き過ぎたマーケットインからプロダクトアウトを加味することを学びました。海外企業は、要は長続きすることが一番です。これらの企業は大幅値上げの結果、生産は落ちましたが利益が増え、社員の残業が減りました。もっと早くこうして欲しかったのですが、今からでも長続きする会社になるよう、価格政策をはじめ、見直しされることを切に望むものであります。

また、全国的人手不足の中、グラビア業界は外国人研修制度にエントリーし、厚生労働省の厳しい指導をパスして、コロナ禍でスピードは落ちましたが、現在250人を超える外国人研修生が各社に配属され、真剣に働いています。中小企業団体中央会の方が働きぶりをご覧になり、思わず涙をこぼされた程です。他の業種はともかく、グラビアは受け入れる方も真剣で、わざわざ現地に面接に行く会社も多くあると聞きます。今、国の方でも3年の技術研修生ではなく5年、10年と期限を延ばした特定技能に切り替えるべく議論を進めています。私共も経済産業省をはじめ諸官庁、政治家等に働きかけ、私共の存続意義と低い地位について説明を尽くしております。まじめに取り組むグラビアの勇姿は、国に対しても送り出し国についても評価していただけるものと確信します。人を大切にする企業が栄えるのです。

本年は辰年です。皆様の御会社が登り竜となりますよう祈念申し上げます。

2024年

年頭所感

北海道グラビア印刷協同組合

理事長 若狭博徳



新年明けましておめでとうございます。

昨年はコロナ感染も5類となり、徐々に元の日常を取り戻しつつあった1年でした。

昨年まで全国グラビアの理事会においては、人材の不足による外国人技能実習制度に関する評価試験などの議題が通年行われていたように思います。各単組の理事と雑談を交えても外国人労働者の居ない企業がないように伺っておりました。

我々、北海道の組合員企業はまだそこまでには至っておりません。しかしながら北海道内の報道によりますと、路線バスやタクシーの運転手は完全に不足しており、札幌の繁華街スキノにおいては週末毎に帰宅難民がタクシー乗り場に長蛇の列を作ります。水産や牧畜、農産等の一次産業を中心に外国人の労働者は少し増えつつあるようですが、全国との間に少し温度差があようです。昨年秋のデータですが、札幌市における有効求人倍率は1.01倍でした。しかしながら、北海道内地方都市は1.15から1.6倍程の倍率になっております。これは全国平均よりも高い数値です。つまり、地方都市や町村では高齢化が加速しており、若い労働力が札幌もしくは関東等へと流失しているものと推測されます。では、その札幌では労働力は充分なのか？ そんなことはありません。

様々な業種の代表らと話をする機会があります。求人は続けてはいるが、暫くその種の電話なりが鳴ったことはないと言われます。宿泊施設も100%の稼働までは受け入れられないようです。折角、インバウンド客が戻りつつある中でなんともったいない話でしょう。札幌の街は都市再開発による新たな商業施設が次々とオープンをしております。それまでなかった外資系による本格的リゾート系やハイエンド級の高級ホテルの進出等が予定されておりますが、欧米の最低賃金は時間当たり2500円以上とも言われており、周辺の企業はその影響を受けることとなるでしょう。つまり、より高い賃金レートの職場へ労働力は流れ、最低賃金に近い人件費の企業や業種へは人も集まらないという現象がいよいよ本格的にスタートしているのかもしれない。

(昨今冬季札幌オリンピック招致の可能性は皆無となりましたが…)

札幌より100キロほど離れた所に位置するスキヤーの聖地ニセコ。

このニセコでは海外から多くの富裕層が訪れており、宿泊施設やレジャー施設等へのコスト上昇影響が大きく、更にはサービスの質向上に向けた旺盛な求人力により最低賃金無視の時給1600円以上で求人されています。我々には高価な時給ですが、欧米から見たら相当お安い時給となります。勤勉な日本人の労働対価がお安いとは何ともです。

少子化におきましても非常に深刻です。札幌市における減少率は緩やかなカーブを描き、徐々に減少の見込みです。お隣の小樽市では以前 19 万人程の人口が今や 10 万人余りまで減少しております。何より、令和 4 年の出生数ですが小樽市全体で 385 人でした。

今後加速度的に人口が減少することが予想されますし、これは小樽市のみならず北海道各自治体の抱える問題であります。

これまで申し上げて参りました高騰する人件費、近未来の圧倒的人口減による労働力の不足はこれまでとは全く異質の社会になっているかもしれません。

業種や産業の垣根を越えて労働力の争奪戦に発展するのもかもしれません。

今考えなくてはならないこととして、近未来に対しどのように対応していくべきなのか？

組合活動を通して考えていかななくてはならない問題は沢山ありますが、確実に遂行していかななくてはならないこととして、各企業がこれまで以上に収益性を向上させて従業員へ配分していくことを可能とする会社づくりであると考えております。そのために実践しなくてはならないこととして、悪しき商習慣の是正は健全経営に必須です。製品の在庫に対する考え方も改めなくてはならないでしょう。最終的には組合員各企業が高い利益を生み出す環境を創出していかなくてはなりません。我々は失われた 30 年を取り戻すべく、組合員企業とそこに従事する社員をより豊かにすることを目標に、皆さんと協議しながら前進する 1 年にしたいと考えております。

全国と北海道のグラビア印刷発展のために甚だ微力ですが尽力して参ります。

最後になりましたが、皆様のご多幸と事業のご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

2024年

年頭所感



関東グラビア協同組合
理事長 吉原宗彦

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

2020年1月16日、国内で新型コロナウイルス感染者が初めて確認されて以来、その脅威に怯え、目に見えないウイルスとの戦いを余儀なくされ、生活スタイルも大きく変化しましたが、昨年5月8日以降、感染症法上の扱いが、2類相当から季節性インフルエンザ同等の5類へと位置づけが変更になり、新型コロナ患者が法律に基づく外出自粛は求められなくなると、一変、一気にもとの生活に戻り、外食産業、旅行業、宿泊業も大幅に回復、首都圏、地方でも街並みはどこも大勢の人で賑わい、欧米人を中心に観光客も多く見かけるようになりました。

ようやく、コロナ禍前の世の中になったとつくづく感じる人が多い、今日この頃ですが、コロナ禍前と変わったなあと感じるところもあります。ロシアのウクライナ侵攻による原油価格の高騰や、ドル高・円安の影響による輸入品の高騰で、「物の値段は以前より全体的に上がった」、その他にも「お客様とりもてで打ち合わせを行うようになった」「現金を使用することが減った」「会食で2次会以降が減った」「ゴルフ場が平日、休日構わずどこも混んでいる」「エレベーターなどのボタンを指先ではなく、関節で押すようになった」などですが、私が一番感じるのは、会社で「社員募集しても全く人が来ない」です。コロナ以前の2019年は募集すれば数人の応募はありましたが、2021年頃からは「ゼロ」に近い状況です。「人手不足」はコロナ後のキーワードの1つではないでしょうか。

なぜこのような状況になるのか、人口減少によるところは勿論あるかと思っていましたが、先日読んだ新聞記事による総務省統計局の労働力調査によりますと、2023年10月の労働人口（15歳以上の就業者と完全失業者を合わせた人口）は6925万人とのことで、2019年平均6912万人でコロナ直前年とほぼ同数でした。10年ほど前の2013年では6592万人なので、10年前より300万人ほど増えていることになります。就業者数でみましても、2013年は6326万人に対し、2019年は6749万人、2023年10月では6749万人です。就業者もコロナ前同等数、10年前より400万人も増えています。

なぜ、これで人手不足なのか。記事を読み、大変疑問に感じましたので、同じく総務省統計局のHPで年齢別就業者数の推移を調べてみました。男子15～64歳、2013年就業者は3231万人、2019年は3215万人、2022年は3161万人と減少傾向に対し、女子15～64歳は2459万人、2645万人、2649万人と増加、65歳以上男女は637万人、889万人、913万人と増え続けています。人口構成より65歳以上の就業者は増えているとは何

となく解っていましたが、女子 15～64 歳の就業者が 10 年前より 200 万人も増えているとは思っていませんでした。女性の労働参画がここ 10 年でしっかり進んでいることとなりますが、一方で男子現役労働者数の減少を女性と高齢者で補っているということとなります。

ちなみに、非正規雇用労働者の割合は 2022 年で男子が 21.4% に対し、女子は 53.2% ですので、女子労働者の半分以上が非正規、65 歳以上の労働者も非正規が多いと考えられますので、いくら毎年、正規社員の定昇を行っていても非正規が増える日本では平均年収が、ここ数十年上がらず、実質賃金がマイナスを連続する訳です。また、日本全体で転職を考えている人は 2022 年時点で 968 万人いるそうで、20 年前の 1.6 倍だそうです。全就業者の 14% にも達します。

我々グラビア業界の印刷、ラミネートのオペレーターはほぼ男性です。前述より男性の新規雇用が困難の中、様々な手を使いリクルート活動は継続しつつも、当面はいかに今いる社員の雇用条件を安定させ、会社に長く勤めて貰うかが鍵となってきます。そのためにも労働環境の改善を日々図り、田口会長が常々仰られている「製品の適正価格での販売」を実行し、利益を出し、しっかり社員に還元できる企業でないといけないと、新年にあたりあらためて強く思う次第です。本年も皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2024年

年頭所感

埼玉県グラビア協同組合
理事長 市村清一



新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

2023年は5月以降に「新型コロナウイルス感染症」も5類に移行されたことで行動制限も緩和され、コロナ以前の日常生活を取り戻していきました。2023年後半には訪日外国人数も増加して、10月には251万人と2019年同月比を超えるまでに回復しました。訪日外国人の増加によるニュース番組の訪日客街頭インタビューにおいて、「日本に来た理由は？」との質問で「日本は物価が安いから来た」との回答がありました。また、これもニュース番組ではありますが、アメリカにも出店しているラーメンチェーン店の価格比較をしていました。渋谷店 VS ニューヨーク店で同一メニューをオーダーした際の価格比較です。渋谷店→1300円に対して、ニューヨーク店→5300円（1ドル=150円換算）。円安とは言え、余りにも物価の違いすぎると痛感したニュース番組でした。1980年代後半～90年代前半、世界経済を席卷した日本はバブル崩壊とともに「失われた30年」によるデフレ経済で国力を大幅に低下させました。国際的なデータでも国力低下を裏付ける様々な資料があります。

①一人当たりGDP→31位（IMF 2023年版）

②世界競争ランキング→34位（国際経営開発研究所 2022年版）

③日本の平均賃金→24位（OECD 2021年版）

以上の通り、今では先進国から周回遅れとなっているのが現状で、誠に残念です。

先般、岸田首相が2030年代半ばまでに全国の最低賃金を時給1500円以上に引き上げると驚きの表明をしました。しかし、先進国の基準からすれば時給1500円でも低い賃金水準です。国内では労働力不足が深刻です。政府は労働力不足を「外国人労働者受入制度の見直し」で受入拡大を目指していますが、はたして、外国人労働者から『選んでもらえる日本』になれるのか？ その政策も合わせて重要ではないかと思えます。

さて、2024年の干支は「甲辰(きのえ・たつ)」です。「甲辰」のキーワードは「変革・激動」と、時代が大きく動く年であると言われています。国内政治は昨年末からの政治資金パーティー問題で大揺れであり、アメリカは大統領選挙が実施されます。政治は国内外とも「変革・激動」の年となる予兆が感じられます。また、物流における「2024年問題」の対応、日銀による「マイナス金利政策」の方針転換も考えられます。まさに、ターニングポイントの年になる予感がします。先行きが見通せない1年だからこそ大地を踏みしめて、前進する地道な経営活動を実践していきたいと思えます。最後に、各企業様の益々のご繁栄と会員皆様のご健勝を祈念致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

2024年

年 頭 所 感

関東プラスチック印刷協同組合

理事長 石井 純



皆様、新年あけましておめでとうございます。

常日頃組合活動にご協力を賜り誠にありがとうございます。

皆様におかれましては、期待に満ち溢れ新年をお迎えしたことを心よりお喜び申し上げます。

2023年は世界経済体制にとって波乱の年となりました。

世界的にグローバルな課題が重要視された一年であり、景気変動への対策が一段と強化され、国際的な取り組みが進みました。また、人口減少問題や貧困問題にも対処するため、国際連携が深まりました。しかし一方では、地域紛争やテロの脅威が継続し国際的な不安定要素もありました。

日本経済では、成長の回復が見られましたが、依然として様々な課題も残りました。2022年からの経済政策の成果により内需が回復しました。また、新たなイノベーションの促進により経済の多様化が進んだようにも感じられる一年でした。

一方で、日本としての課題もありました。人口の減少と高齢化による労働力不足は深刻化し、国内生産減少にもつながりました。

また、地震や自然災害による影響も依然として懸念され、更に長期化した新型コロナウイルスへの対策や外部の経済変動の影響もあり、不確実性が高まった一年でありました。

政府はこれらの課題に取り組み、経済の持続的な成長を目指し、産業の転換と新たな成長分野の創出に注力し、技術改革や環境に配慮した政策を推進しました。また、働き方の改革や女性活躍の促進など、多様な社会課題に対応する取り組みも進めました。2023年は、世界情勢と日本経済の両方で多くの課題とチャンスが存在しました。持続可能な成長や社会課題への対応は継続的な努力と協力が必要であり、世界と日本が協力し、より良い未来を築いていくことが求められる一年でありました。

軟包装業界においては2023年も前年に引き続き原材料の高騰は継続しており、エネルギーコストも高止まりを続けている一方で、環境問題に配慮した製品への需要が高まり、再利用可能な包装素材やバイオデグレータブルな素材へのシフトが求められました。

また、慢性的な労働力不足も2023年は大きく各企業にダメージを与えたのではないのでしょうか。今後は外国人労働者の雇用なくして業界の存続は、あり得ない状況がすぐそこまで迫っているようにも感じます。

さて、このような状況下で2024年軟包装業界はどのような年になるのでしょうか。安定した生産力（労働力）の確保と適正価格の転嫁が業界を支えるキーポイントと考えます。

2024年の干支は「甲辰（きのえ・たつ）」です。「春の日差しが、あまねく成長を助く年」と言われているようです。春の暖かい日差しが大地すべてのものに平等に降り注ぎ、急速な成長と変化を誘う年で非常に縁起の良い年でもあります。

当業界へも良き影響を及ぼすよう期待いたします。

最後になりましたが、今年一年が皆様にとって素晴らしい一年になることを祈念申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。

2024年

年頭所感



東海グラビア印刷協同組合
理事長 杉山真一郎

新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本原稿を書くにあたり昨年何を書いたか確認したところ、結びとして2023年は多くの食品値上げが実施され、売れ行き不振により我々にとっても売上は厳しい1年になるのではないかと、その反面、売上不振により納期混乱は収まるだろうと予測しておりました。フィルム出荷数量の統計を見ても、多くの業界関係者にとって10%程度は数量的なダウンをした2023年であったと思います。そして予測通り、混乱していた納期は終息し、むしろ仕事量不足の状態が今でも続いていると思います。ただ、幸いなことに価格改定が全体として進み、売上はなんとか維持できたのではないかと感じております。価格改定により損益分岐点が下がり、ここから受注量が増えれば業界としてもデフレからの脱却、好循環への期待が高まりますが、原材料はまだまだ高値継続であり、昨年10月にはイスラエルにおいて戦争が始まるなど、物価が下がる見通しはありません。大多数の国民にとって実質賃金マイナスの状況であり、需要が立ち上がるのは厳しいのではと思います。

コロナウイルスの影響、そしてロシアの戦争により、多くの国が大幅なインフレになり物価および給与が上昇しました。日本もインフレ傾向ではありますが、日本と他の先進国との物価および給与について課題となっています。日本が先進国であり続けるためには、こういった他国との水準にも目を配ることが大切なのではと思います。需要が立ち上がらない中でこれ以上のインフレは厳しいというのが現実ですが、適正価格そして世界における日本のポジションということも意識した行動が改めて望まれると考えます。

さらに、日本のポジションというのは外国人技能実習生とも密接に関係する話題だと思います。皆様ご承知の通り、外国人技能実習生制度について見直しが議論されています。現在、大変苦勞して実現したグラビア印刷の実習制度が新たな制度になっても継続して認めていただけるよう全グラ一丸となって働きかけを行っておりますが、これもそもそも日本に魅力（特に金銭的）がないと、制度があっても将来誰も日本に来てくれないということになるかもしれません。東南アジア諸国の皆さんが日本に追い付き追い越せで為替の影響もありますが、日本に労働者として来る意味が薄れてきているのは皆さんのお気付きの通りです。

昨年、全くの異業種のある会社の社長とお話をする機会があり、皆さん人手不足と嘆くが時給2000円なら来るだろう、2000円は極端にしても周りの会社より時給を良くすれば来るのではないかと、当社はそうしている、と面と向かって言われました。内需型産業にとって、内需不振の状況下でどのような舵取りを行うかということは共通経営課題だと思います。日本はどのような道を選び、そして進むのか、将来の日本の位置付けにも影響を与える大切な1年に今年はなると思います。

我々は生活に必要なものを作っている、社会インフラを担っている、そのためにもサステナブルな業界にしなければならないというのは組合でも常に確認されています。人手不足や設備の老朽化といった課題は、手を打たない限り日に日に進行していきます。各社良いパッケージを作るという競争とともに、重要な社会インフラを担っているということであれば、業界全体で生産効率を上げるような連携という考えがますます重要になるでしょう。組合員皆様と本年1年、改めて課題に向けてありたい姿を描き、共有し行動できればと思います。本年も一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたしますとともに、会員皆様方のご繁栄とご健勝を祈念致しまして、新春のご挨拶とさせていただきます。

2024年

年頭所感



北陸グラビア協同組合
理事長 賀谷真尚

寄る年波に抗う

皆さん、新年おめでとうございます。

私は、2024年早々に80歳になります。この歳になると新しい年を迎えることが、めでたいのか、めでたくないのか、先の余命が数えられる今、心境は複雑です。

3～4年ぐらい前にとある先輩から、男75歳を超すと毎年2歳ずつ年を取るねと、真剣に尋ねられ、今まさしくその通りだと実感しています。何か毎日、毎日、体力、知力、気力が衰えてゆくのが分かるように感じています。特にゴルフをしていて、かつて当たり前だったことが当たり前に出なくなることを思い知るようになりました。

当地の新聞に、かつて活躍したプロゴルファーの鈴木規夫がコラムを書いており、それらの原因は五感の衰え（視力、聴力、触覚、味覚、臭覚）で視力が低下し、体の柔軟性が失われ、判断力も鈍くなる、それらがゴルファーの可能性を侵食していると。先日、全英シニアオープンを観戦して、かつてのマスターズチャンピオン、イアン・ウーズナム、ホセ・マリア・オラサバル等、そうそうたるメンバーでしたが、ウーズナムはショートパットでパターが揺れていたし、オラサバルはバックスイングを上げにくそうだった。切れ味鋭いプレーをして当然という思いが重荷になっているのだろう。これがシニアアスリートの現実だと感想を述べていました。

老いることは仕方がない、ままならないのが人生ですが、マッキンゼーの大前研一は80歳になっても毎日楽しい人生を送るには、秘訣があり、それは体力、友達、スキルが大事と云っています。それは一朝一夕に身に付くものではなく、何十年も前から準備することで人生後半戦を豊かに過ごせると云っています。若い人は直ぐ準備すべきでしょう。物心が付くのが15歳としたら、人生50年、考えると短い、その間しっかり仕事をして、しっかり遊び、人生を楽しみ謳歌すべきだと思います。

私もまだまだ伸びしろがあると思い、衰えてゆく自分に挑戦するこれからのしたいと考へ、行動したいと思っています。

先の読めない世界、世の中、業界ですが、自社も含めこの1年の皆様の企業の発展、繁栄を祈念致します。

2024年

年頭所感

関西グラビア協同組合
理事長 竹下晋司



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は、当組合に対し多大なるご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。2024年の幕開けにあたり、私たち関西グラビア協同組合は新たな挑戦と目標に向かって、一層の業界の進歩発展に貢献して参る所存です。

まずは環境に配慮したパッケージの重要性について触れたいと思います。今更ですが、プラスチック包装は、食品や日用品を保護し、品質を保つ上で欠かせない要素です。その軽量さと耐久性は物流効率を高め、コストやCO2削減にも大きく寄与します。また、プラスチック包装材を製造する私たちの業界は、社会に価値を提供する動脈産業であり、かつ廃棄されるプラスチックを資源として再利用することでサーキュラーエコノミーを実現する静脈産業にも寄与できる可能性があります。

しかし、これには仕組み作りとバランスが不可欠です。私たちは、石油由来のフィルムやインキ、接着剤を使用している事実を認識しながら、一方で環境、自然、生物の多様性を尊重し、持続可能な社会の構築を目指すべきです。これには、ゼロサムゲームではなく、地球と人々の生活にとって最適な解決策を模索するため、既存の枠組みやサプライチェーンの皆さん、さらに消費者の皆さんにも協力していただく必要があります。これは単なる理想論ではなく、実現可能な解決策を見つけるための現実的な取り組みであり、私たちに課せられた課題であると考えます。

2023年、新型コロナウイルスの影響による経済の混乱は、私たちの業界にも大きな影響を与えました。しかし、それはまた、私たちが日常生活にどれほど密接に関わっているかを示す機会でもありました。今後も、組合員の皆様とともに、新たな挑戦に取り組み、業界のさらなる成長と発展を目指してまいります。

さらに技能実習生制度の廃止に伴い、特定技能職種指定への移行が重要な課題となっています。これは、国際的な人材の流動性を高め、業界の持続可能な成長を促進するための重要な一歩です。私たちは、多様な背景を持つ人材を受け入れ、共に成長することで、新たなイノベーションと創造性を引き出し、業界をさらに豊かにする機会とも捉えています。

故稲盛和夫氏の言葉を借りれば、「混迷の時代に克つリーダーシップ」が求められています。日本は他国と比較しても恵まれた環境にあり、私たちの業界もまた、その豊かな資源と優れた人材を最大限に活用して、新たな未来を切り開いていく使命と可能性があると考えています。決して悲観することなく、時に楽観的で前向きな姿勢でこれらの挑戦に取り組んでいきたいと思ひます。

2024年、私たちは新たな一歩を踏み出します。これからも組合員の皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

2024年

年 頭 所 感

九州グラビア協同組合
理事長 母里圭太郎



新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

2023年は、コロナの長いトンネルを抜けて様々な社会活動が再開しました。イベントやお祭りに「4年ぶりの開催」という言葉が多く飛び交い、街に賑わいが戻ってきました。組合活動も活発化し、青年部全国大会に参加させていただいたときには、多くの全国の仲間達と笑顔で語り合える幸せを実感し、感謝することの多い一年でした。

コロナショックの経済への影響は大変大きく、そこから欧米の経済が急ピッチで回復したのに対し、日本は緩やかな回復となっています。経済の回復過程に原油や小麦などの一次産品価格高騰が重なり、物価は急上昇し、欧米では急速な金利引き上げにより抑え込みを進めました。一方、日本は金融緩和を継続したため円安が進みました。金融政策もソフトランディングに向かっていると思われませんが、その期間に失ったものは補填できません。国内製造業においては、輸入価格上昇分の販売価格への反映、物価上昇分の賃金への反映、賃上げに伴うコスト増の価格への反映等の課題が山積しました。私たちの業界は設備産業という一面もありますので、設備投資も取り組むべき重要課題です。持続的な生産活動を担保し適切な品質を維持するための設備投資、さらに、人手不足を補うための省力化・自動化に資する設備投資や、安全衛生・作業環境改善・地球環境に資する設備投資も必要性を増してきています。

九州エリアでは、外資系半導体工場進出や都市部の再開発に牽引されて、昭和の高度成長期を越える設備投資の伸び率となっています。日本政策投資銀行九州支店は、「設備投資は経営者が先行きに対して強気か弱気か示す鏡のようなもの。設備投資→生産能力の向上→収益力の改善→賃上げ。この好循環をつくるためにも設備投資は大切だ」というコメントを出しています。適切な設備投資を可能にするため、「適正価格」の大切さをひしひしと感じます。また、ソフト面についても、技術の継承、現場のレベルアップによって、企業の発展・継続性を支えていかなければなりません。

今後もロシアのウクライナ侵攻、米中対立、そしてガザ紛争などグローバルな地政学的リスクの日本経済への影響が懸念されます。持続可能な社会のために私たち業界の役割をアピールするとともに、限りある資源を有効に活用するために納期やデリバリーも含めた過剰品質問題への対応もクローズアップされる機会だと思えます。

2024年の干支は甲辰です。甲は十干の最初の文字で、あらゆるものの初めての意味を持ち、従来の惰性を排し、協力して大いに新しい創造活動をするを言い表しています。辰は、陽気に誘われて万物が振動し、草木の形が整って活力が旺盛になっている状態を表し、また、一説によると、雷雨が降って農作が行われ、植物が根を張りどんどん成長することを意味するとも言われています。

組合の皆様との協力の成果がしっかりと根を張って将来に期待が持てる年としたいと考えております。

会員各社の皆様のご繁栄とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

2024年

年頭所感

全国グラビア製版工業会連合会

会長 中嶋健一



新年あけましておめでとうございます。日頃は、当工業会の会員企業各社に多くのご用命をいただきまして誠にありがとうございます。工業会を代表いたしまして御礼申し上げます。

昨年、3年にわたり社会に影響を及ぼしたコロナ禍に加え、未曾有の物価高が私たちの業界だけでなく日常生活にも大きな打撃を与えました。電気料金の高騰、需要の減少、そして供給チェーンの混乱など、さまざまな課題に直面しました。さらに円安の影響もあり、更なる原材料の価格上昇、人手不足などといった新たな問題が加わりました。この厳しい状況の中でも、多くの会員企業の経営者が、知恵を絞ってこの難局を乗り越えてまいりました。今年も同様な苦労はついて回りそうですが、私も経営者の端くれとして今年、心掛けることがあります。中国古典の「貞観政要」のリーダー論の一節に「兼聴」という言葉があります。兼ねて聴く。つまり多くの人の意見をよく受け入れるということです。ここで「きく」の漢字が「聞」でなく、「聴」になっています。「聞」は感覚器官である耳から音や声が入ってくるという意味です。これに対して「聴」は意識的によくきくという意味です。そこからさらに、正しく理解する、従う、許す、という意味にもなっています。どちらも耳の部首を持つ漢字ですが、主体的かどうかで大きな意味の違いがあるのです。どこかおかしいと感じながら誰もそれを口にしないと、やがてその感覚が麻痺して、重大な事故や失敗に繋がってしまうのです。社員の話をよく聴いて風通しの良い、組織作りを心掛けなさいと説いております。自分自身や組織を冷静に振り返ることができるか、そこは大きな分岐点だと言えるのではないのでしょうか。

これからの社会は持続可能な取り組みも一層強化していく必要があります。環境への配慮は今やビジネスの一環となっております。環境負荷を最小限に抑える取り組みを進め、社会的な責任を果たすことも考えねばなりません。

組合の強みは、結束力と連帯です。2024年も会員企業間の協力と情報共有を重視し、業界全体の発展を促進していくことが求められます。また、デジタル化や持続可能な技術への取り組みもさらに強化していくことで、より競争力のある業界を築いていく考えです。挑戦は続きますが、私たちは共に歩み、協力し合いながら困難を乗り越えていくことができると信じています。組合員の皆様と共に、2024年もより良い未来を築いていくため、努力を惜しまず邁進してまいります。最後になりますが、皆様方のご繁栄とご多幸を祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

組合員・単組の近況

関グラ協組 定例理事会報告

特定技能制度への業種追加について活動報告

関東グラビア協同組合は2023年12月7日(木)午後3時より定例理事会を開催した。当日は、吉原宗彦理事長(東京加工紙(株))、安永研二副理事長(東包印刷(株))、山下雅稔副理事長(株巧芸社)、川田雄治理事(トーホー加工(株))、橋本章理事(橋本セロファン印刷(株))、千田敦理事(株東京ポリエチレン印刷社)、村野剛理事(信和産業(株))、諸石武士理事(日本パッケージング(株))、小林直人理事(八潮化学(株))、福島潤理事(株東和プロセス)、柴田里香理事(弁護士)、田口薫最高顧問理事(大日本パッケージ(株))、袖山高明専務理事、岸本一郎監事(株カナオカ)の14名が組合事務所から、佐藤裕芳監事(株千代田グラビヤ)がZoom経由で、全員参加での開催となった。

冒頭、吉原理事長は、「12月に入り当社はインキ、接着剤は改定価格での受け入れとなった。来年にはフィルムが値上げされるのではとの話もあり、年明けから春先にかけて、また値上げ交渉に忙殺されるかもしれない。人材不足を解消するには、働きやすい、魅力的な業界とする必要がある。そのためには、発注者との価格交渉は重要であり、国もその点を強調している」と語り、以下の議題について議論した。



1. 特定技能制度に関する活動

2023年11月24日(金)に「技能実習制度及び特定技能制度の在り方に関する有識者会議」において最終報告案が議論され、11月30日(木)、最終報告書が、「外国人材の受入れ・共生に関する関係閣僚会議」の共同議長である法務大臣に提出された。新設「特定技能制度」に業種追加されないと、外国人材を雇い入れできなくなるため、何もせずに座したままでは倒産か廃業を余儀なくされるため、あらゆるルートを通じ、グラビア印刷を業種追加する道を探るべく、全国グラビア協同組合連合会として活動を開始しているが、それについての経過報告があった。

2. 「不条理な取引」事例の考察

組合員から情報提供のあった「不条理な取引」事例につき、何が問題で、どう対処すべきであったのか、類似の事例が発生した際にはどう対応すべきかについて、柴田理事の助けを得ながら、理解を深めた。

3. 新年会について

2024年1月12日(金)開催予定の新年会について、準備状況の報告があった。

4. その他

・石化製品の市況推移

組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合

令和5年度年末情報交換会を開催

関西グラビア協同組合（竹下晋司理事長、㈱ダイコー）は、2023年12月1日（金）午後6時からANAクラウンプラザホテル大阪（平安の間）において、130名参加のもと令和5年度年末情報交換会を開催しました。

司会の森脇拓也青年部部長が、情報交換会としては過去最多の参加者となったことへの謝意を表し、続いて竹下晋司理事長が開宴挨拶の中で、このように会員が一堂に集い、情報交換をする場を設けることが組合の存在意義であるため、会場の定員を超える参加人数になったものの敢えて調整はお願いせず開催するに至った経緯を述べ、続けて、「先だって青年部全国大会を開催することができました。初回を東海で開催し、2年後に九州、そして次は関東というときにコロナによる延期を余儀なくされましたが、今回5年ぶりに奥日光での交流会ということで、遠い道程ではありましたが非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。このように全国の若い青年部の面々が一堂に集って情報交換することで、軟包装業界に新しい風が吹くのではないかと私はひたすら信じております。本日はこのように多くの皆様方に集っていただきましたので、しっかり情報交換をして親睦を図り、最後まで楽しんでいて下さい」と締めくくりました。

その後、賛助会員を代表してサカティンクス㈱グラビアパッケージ事業部長の松浦敦史氏の乾杯の音頭で宴会が始まりました。途中、今期新たに組合加入された㈱昭和特殊印刷社代表取締役の垣内一兵氏から加入挨拶をいただき、また、久しぶりに広島からご参加下さった三共ポリエチレン㈱専務取締役の田中啓司氏と北陸から特別参加の賀谷ゼロファン㈱代表



司会の森脇青年部部長



竹下理事長の開宴挨拶



サカティンクス㈱の
松浦事業部長による
乾杯音頭



新会員の挨拶を行った
㈱昭和特殊印刷社の
垣内社長



広島からご参加の三共
ポリエチレン㈱の
田中専務



特別参加の
賀谷ゼロファン㈱の
賀谷社長

取締役の賀谷壮佑氏に一言ずついただき、2時間の食事と歓談の輪が繰り広げられました。

最後に、永らく関西グラビア協同組合で活躍いただき、来年から関西を離れ関東に行かれる東洋インキ(株)リキッドインキ営業本部関西営業部部長の三堀 貴氏から一言いただいた後、締めくくりとして役員一同が壇上へ上がり、代表して高桑真樹副理事長が、今年の関西は阪神タイガースとオリックスで盛り上がった1年でしたけれど、

来年は我々が業界全体そして日本を盛り上げていかなければならないと思っています。2年後には大阪万博も開催されますから、今日お集まりいただいた皆さんと協力し合って、一致団結して関西を盛り立てていきながら新たな年を皆で迎えましょうと挨拶し、一本締めで午後8時、今年最後の関西グラビア協同組合の行事を無事に終えました。



永らく関西で活躍下さった東洋インキ(株)の三堀氏



高桑副理事長が中締めの挨拶を

snapshot



役員一同が登壇



snapshot



会場の様子



snapshot



組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合青年部

「第3回全国グラビア協同組合連合会青年部 全国大会」報告

報告者：東洋インキ(株) 金原慎一郎

2023年11月17日(金)、18日(土)、九州、関西、東海、北陸、および関東の各グラビア協同組合青年部より計75名にご参加いただき、「第3回全国グラビア協同組合連合会青年部 全国大会」を開催しました。栃木県の日光・湯西川温泉「彩り湯かしき花と華」にて、全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長より「軟包装業界の現状と未来への提言」のご講演を賜り、その後、懇親会を実施。翌日は日光東照宮をはじめとした懇親旅行にて各単組間での親睦を深めました。

青年部全国大会は各単組間での懇親と絆を深め全国で連携して活動していくことを目的に開催。前回2018年9月(九州)から約5年ぶりの開催となりました。今回は関東グラビア協同組合の主催にて実施し、九州より6名、関西18名、東海・北陸18名、関東32名のご参加をいただきました。

初日、東京駅集合時には雨模様でしたが、バスで湯西川温泉に到着した頃には快晴となりました。関東グラビア協同組合青年部の石井圭太幹事(サカティンクス(株))の司会進行の下、講演会、懇親会が行われました。

講演会にあたり、冒頭、関東グラビア協同組合青年部の原卓実部長(三洋グラビア(株))より、各地遠方からの参加への謝意と、改めて業界の絆を繋いでいく大会である旨の挨拶をいただきました。

講演会では、全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長(大日本パッケージ(株))より「軟包装業界の現状と未来への提言」と題して、ご自身の経験をもとに約1時間にわたり講話をいただきました。全グラのこれまでの活動成果から始まり、軟包装の不可欠な価値と利点についての



司会を務めた石井幹事



原青年部部長



田口会長



ご説明の後、軟包装業界の不思議として、食の安全より安価が優先されること、設備投資が極めて少ないこと、新たな社員が入ってこないこと、そして常態化してしまった低利益率について挙げられました。世界のコンバーターは営業利益 10%が当たり前であり、プロダクトアウトでの開発・供給が基本となっていること、逆に日本では供給義務という言葉の下での赤字販売が未だに存在していることに触れられました。素晴らしい価値を提供していることを理解・発信してしっかりと適正な利益水準にしていくこと、そして社員へ還元し人を集められる会社・業界にしていく必要性を示されました。今年は消費者の家計節約志向の高まりもありパッケージ需要が低迷しており、利益面でも厳しい局面にあるものの、業界として継続して努力を続けていくことの重要性を伝えていただき、参加者は真剣に耳を傾けていました。

懇親会は、「彩り湯かしき花と華」の大広間にて囲炉裏を囲みながら開催されました。関東グラビア協同組合の原青年部部長と全グラの田口会長より改めてご挨拶をいただいた後、関西グラビア協同組合の竹下晋司理事長（㈱ダイコー）より青年部への激励とともに乾杯のご挨拶いただきました。各席を離れて活発な交流・歓談が進み、また久々の再会を喜ぶ場面も多く見られました。懇親会の終盤には各青年部長による挨拶の時間が設けられ、九州グラビア協同組合の母里圭太郎部長（㈱平野屋物産）、森 一敬副部長（有染原化工）、関西グラビア協同組合の森脇卓也部長（森脇鉄工㈱）、東海グラビア印刷協同組合・北陸グラビア協同組合の大野広記部長（㈱ライブオール）、賀谷壮佑様（賀谷セロファン㈱）より、各々の取り組みと今後の抱負が述べられました。最後は関西グラビアの堀川 孟副部長（日新シール工業㈱）の中締めにて、二次会に交流の場を移しました。



竹下理事長



翌日は日光東照宮を観光し、巫女さんの案内の下で歴代の徳川将軍が御祓いを受けた部屋に入っの特別拝観を体験しました。当時、全国各地から参拝者が訪れ、東照宮参拝は1つのステータスとなっていたようで、正に今回の全国大会にふさわしい場所でした。東照宮にて直会（なおらい）を取り行った後、宇都宮の大谷資料館を訪問し、東京駅にて解散となりました。

各地の会員同士が親睦と交流を深める良い機会となり、コロナ禍を挟んでの久々の開催は非常に有意義なものとなりました。関東グラビア協同組合としても非常に貴重な経験を積む場となり、今後の活動に活かしていきたいと決意を新たにしました。業界全体の課題に改めて向き合い、各々の活動を共有できる機会となり、今後も継続して参ります。

snapshot



石井幹事



関東グラビアの原部長



懇親会の様子

snapshot



関西グラビアの堀川副部長



北陸グラビアの賀谷氏



九州グラビアの母里部長（左）と森副部長



関西グラビアの森脇部長

snapshot



snapshot



snapshot

